

## 第9回名桜大学高大接続勉強会報告書

2023年8月17日（木）、リベラルアーツ機構主催「（通算）第9回名桜大学高大接続勉強会」を名桜大学学生会館 SAKURUM6 階スカイホール A & B において開催いたしました。今回は、北部地区7高等学校から8名の教員と、本学の教職員19名、計27名が参加しました。

最初に、司会進行を務めた佐久本功達リベラルアーツ機構長による「2023年度名桜大学高大接続プログラム」の紹介の後、高安美智子学長補佐（北部教育担当）の「高大接続勉強会の趣旨説明」が行われました。引き続き、参加者の自己紹介があり、第1部全体会が開始しました。

全体会では、木村堅一副学長（入試・教育担当）より、名桜大学の概要、これからの大学教育、名桜大学の教育の方向性と入試改革を踏まえた高大接続の重要性について、簡潔な説明がありました。

第2部の高等学校別情報交換会では、高等学校ごとの7ブースそれぞれに対して10分を目処に、本学の国際学群、学際学部、スポーツ健康学科、看護学科、健康情報学科、リベラルアーツ機構、入試・広報課の教職員が、入学前学習から入学後の活動や学びについて、活躍している学生の情報共有や気になる学生の情報交換を行いました。その際、大学側からは、学科紹介や入試情報、各種ボランティアやSA、学習センターのチューター等として活躍している学生の紹介、オープンキャンパスの様子、入学前学習eラーニングの取組状況等について情報提供が行われました。また、送り出した高校側は、大学での学生の状況や気になる学生についての質問等があり、緊張感もありましたが安心しましたという感想が聞かれました。

本会の目的は、北部地域の人材育成を目指して、高校教育の現状や大学が目指す教育改革の方向性について、高大双方による意見交換を行い、高大接続の実質化に向けた具体的な方策を共に考えることです。本学における高大接続の重要性に鑑み、高大接続事業の担当者として、その実現に向けて、高等学校との信頼関係を構築することが、最善策だと考えております。今回は、有意義な情報交換が行われ、先生方の振り返りコメントからも高大双方の信頼関係づくりができつつあることを実感することができました。

今年度第2回（通算第10回）高大接続勉強会は、11月27日（月）を予定しております。引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。



写真1 木村副学長講話



写真2 「（通算）第9回名桜大学高大接続勉強会」の全体会（2023.08.17）



写真3 第2部 高校別情報交換会



写真4 閉会式の様子

<高校教員の事後アンケートより抜粋>

1. 学生の活動報告及び情報交換の中で、特に印象深かったこと
・自高の卒業生の様子を直に聞いてよかったと思います。
・「北部枠を増やすことで地域の生徒をより多く受け入れるという決断をした」というところ。
・全学部、生徒の入学後の様子（良い・悪い）を知ることができて良かったです。自らの将来のビジョンが明確でかつアドミッション・ポリシーをよく理解し、主体的に粘り強く学べる生徒を高校側でも育成していきます。
・在校生(特に1年次)の状況を聞くことができたことが良かったです。
・入学決定者の取り組み状況や入学後の様子
・生徒の現状を知ることができ良かったです。
・入学前、入学後と手厚い学習支援等の体制が特に印象に残りました。
2. 今回の高大接続勉強会について
・本音で話せるので、後半の70分はあっというまでした。
・初めての参加だったのですが、このような取り組みや場があることはとても有意義だと思いました。
・大変、貴重な時間でした。今回の学びを高校側でも情報を共有し、指導に役立てていきます。
・毎回ですが、大変勉強になりました。改めて地元地域の学校として高大接続勉強会の大切さを感じることができました。
・大学の先生方の意見や生徒の様子が聞いて良かった。今後、入学希望者や決定者への施策を考える良い機会になった
・短い時間でしたが、各学部をはじめ、様々な話を聞くことができ、今後の生徒指導に結びつけることができそうです。
・卒業生の状況や各学科の特色を知る事が出来ました。
3. 今後の高大接続勉強会で取り上げて欲しいテーマや開催方法について
・今回のテーマも良かったです。意見交換会を長くしても良いと思います。
・今回のように各学科のお話が聞ける研修を、年1回は開いてもらえると嬉しいです。
・入学生徒の様子や各学科が希望する学生像を聞きたい。
・大学と高校で行える連携について。
・大学卒業後の学生の実態。チューター制の内容

<大学教員の事後アンケートより抜粋>

<p>1. 学生の活動報告及び情報交換の中で、特に印象深かったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校によって、姿勢が異なることです。例えば、今回のような勉強会を絶好のチャンスと考えて、iPad に卒業生の写真を入れてきて、入学後の様子を真剣に聞く先生もいました。</li> <li>・高校側が知らなかった情報を提供したことで、とても驚いていた様子だった。協力関係が気づけたと感じた。</li> <li>・第一部で高校の先生方がメモをしながら熱心に聞いていらっしゃったのが印象に残りました。</li> <li>・高等学校の先生方は、学生の進路先に関心があるため、学科ごとにどういった進路先が主流なのかは、整理しておいた方が良い。</li> <li>・4 年次学生の資料を学部長に提供して頂いたが、異動等により 4 年次学生が頭に浮かばない方もいたようなので、学生の一定細かな状況は当面、1 年次のみで良いのではないか。</li> <li>・ただし、4 年次学生の資料から、「高校時に～に取り組んだ方が良い」という学生によるアドバイス報告した折に、高等学の先生方は熱心にメモしていた。よって、それは、何某かの方法で収集・整理したほうが良い。</li> <li>・これまでは、すべての高校が相席で意見交換してきたが、ブースを作ったことで、大学と各高校との意見交換が極めて円滑に行えた。毎年同じコンセプトで実施できるとよい。</li> <li>・木村先生の報告は本学の方針を改めて確認する良い機会でした。全教職員で共有し、本学の担うべき責務と、今後の方向性を共有していくことが重要と考えます。</li> <li>・高校の先生方から、中高の接続においても高大接続同様の課題があるとのこと。入試において、学力担保か募集人員確保が悩ましいなど。</li> <li>・小中で導入されている「観点別評価」が高校においても導入され、試行錯誤しているとのこと（大学入試おける調査書の評価に影響するか）。</li> <li>・複数の高校から、高校では願書が書けないレベルの生徒が多く、それらを教員が手伝うなど苦労すると言った意見を頂きました。</li> </ul>
<p>2. 今回の高大接続勉強会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に良かったです。もっと高校の先生のお話も聞きたかったです。特に、11 月に合格している生徒たちの学びのモチベーションのあり方について、大学と高校で協働する方法を模索したいです。</li> <li>・本学の高大接続の目的、全体像が分かりやすく説明されていた。データに基づいた説明は、特にこれからの北部地区へ貢献できる大学の魅力について、とても分かりやすかった。ありがとうございました。</li> <li>・本学入学生の様子をフィードバックできてよかったです。また、学生の高校生の時の一面を知って学生の新たな面がわかりました。今後の学生の関わりで活かしたいと思います。</li> <li>・当初「個別情報交換会」は時間的に長すぎるのではないかと心配していたが、実施してみたら予想とは反対に短く感じた。</li> <li>・今回のようなブース形式は高校側とコアな情報交換ができるので大変良いと感じた。</li> <li>・やはり、今回は、企画立案、役割分担等が遅すぎる感は否めない。また、我々も、高等学校の先生方も、全体像が見えないままの見切り発車のような状況。だがしかし、意味はあったと思う。「～を大学側から聞きたい」や、「～のような高大連携は可能なのか」のような、お話しする軸のようなものを、ある程度丁寧に事前収録し、その点について意見交流するような会にした方が建設的である。</li> <li>・高校の先生方が、送り出した卒業生の状況を気にかけていることや、個々の生徒の課題も含め、個別に具体的な情報交換ができ、有意義な機会でした。高校の先生方と協働して、北部地域の教育の課題を考える機会になればと思いました。</li> <li>・個別情報交換会のスタイルにしたことで、情報交換の内容が充実したと感じる一方、例えば、学科の先生方が対応していた「各高校出身者の状況」に関する情報交換において、代表して参加した先生方が、当該学生全員を把握しているわけではないと思いますので、難しいところもあったのではないかと懸念もあります。</li> <li>・多くの教員が各高校のブースに参加したことは良かったが、各ブースにおける大学側の参加者数には偏りがあったと感じた。</li> <li>・事務職員だけのブースもあり教員も加わった方が良いのではないか。</li> <li>・情報共有ができて良かったです。ありがとうございました。</li> </ul>

3. 今後の高大接続勉強会で取り上げて欲しいテーマや開催方法について
・「入学前学習の実施を促す方法を確立するためには」
・時間的な関係で、こちらの情報を一方的に共有したままになったことがあったので、時間配分を考えて、両者の意見交換ができるとよいと感じた。
・MNC の協力が必要だと思いますが、ブース形式のなら遠隔でもできるかもしれません。
・2とも関連するが、この勉強会が、「どこまで」めざすものなのかを明らかにして欲しい。単に、①大学としての学生獲得レベルで良いのか？ ②もう一段上の、教育理念、内容・方法等を共有していこうといったレベルなのか？ また、学科長一個人でお答えすることには限界があるので、②のようなレベルをめざすのであれば（「仕事が増える」のではあるが）、高大接続担当者を配置した方が良い。
・高大接続勉強会では、毎年ゼロから新しい企画を考えて実施するのではなく、柱となるコア企画をそろそろ決定した方がよいと思いました。例えば、コア企画は、 ①名桜大学の初年次教育（教養演習、アカデミックライティング I 等） ②名桜大学の学習支援センター、リメディアル教育 ③北部出身の在学生との意見交換 ④学科長との意見交換 ⑤名桜大学の入学前教育（ラインズ、特別講座） ⑥高校の教育（総合的な学習の時間、英語教育） などでしょうか。それらを計画的に組み合わせ、持続可能なプランを立てると良いと思いました。もちろん、新しいニーズにも対応していくことができると良いと思います。
・今回のように北部地域の進路担当教員が集う機会はほとんどないとのことでした。やんばるの高校の先生方が進路指導（キャリア教育）を行う上での困難感を共有し、解決に向けた協働体制について、考える場になればと思います。
・中・高の接続に関しての取り組みがあるのであれば、その概要・状況を共有いただくと、本学の高大接続の取り組みにも参考になるものがあるのではないかと想像しています。
・学習指導要領の改訂に伴い、高校側の学習成績の評価方法、観点別評価方法などの課題など。またそれを踏まえた高校現場の意見や大学入試でどのように評価、利用して欲しいのか。一方で大学側はどう考えているのか、その方向性などについて検討課題があるのではないかと。
・高校側からテーマを挙げていただくことが大切かと思えます。

報告 2023年9月11日（月） リベラルアーツ機構 高安美智子